

ロゴマーク作成プロジェクトの意見交換会にご参加いただいた5名の方からのメッセージ

・園田 匠さん



NPO 法人ひた水環境ネットワークセンター 理事長
“子どもたちに泳げる川を”を合言葉に 1992 年に発足。
以来、水環境を中心にまちづくりの応援団として活動。

今回のプロジェクトに際し、学生の皆さん方に筑後川上流での人々の川との関わりや想いについてお伝えする機会をいただいたこと、そしてその想いを、五感を通して感じてロゴを作成してくれたことに感謝しています。上流から下流まで繋がり物語を表現したロゴに愛着が湧いてきています。

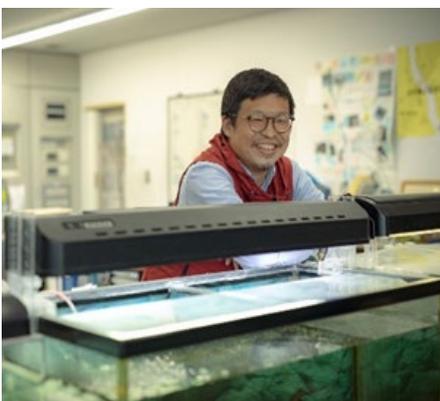
・中島 重人さん



1982 年福岡県久留米市生まれ。
14 歳の頃ゴミ拾い活動に関わったのをきっかけに、様々な NPO・地域プロジェクトに関わるようになる。2008 年に筑後川のゴミ拾い活動や自然体験活動を行う「Good News」を立ち上げる。

九州大学の皆さん、筑後川本格改修 100 周年ロゴマークの作成ありがとうございました。フィールドワークで実際に現地に赴き、筑後川に携わる人たちの活動や想いに耳を傾け、知れば知るほど歴史も文化も奥深い「筑後川」というフィールドの 100 周年を、「ひとつのロゴマーク」に落とし込んでいく作業というのは大変だったと思います。「ここで 100 周年」「ここからの 100 周年」。そんな「未来」を迎える筑後川の象徴を描いてくれた皆様に、心から感謝申し上げます。

・川嶋 睦己さん



NPO 法人筑後川流域連携倶楽部副理事長
筑後川流域で防災教育や自然体験教室の企画運営、被災者支援活動等を行っている。また「ぼうさい落語家・福々亭金太郎」として各地で口演活動も行なっている。

いみじくも、「流域治水」や「かわまちづくり」等、人々の暮らしと川との関わりを見直す転換期の中、「筑後川本格改修百周年」を迎える事に不思議な巡りあわせを感じます。その象徴であるロゴマークを、前途輝く大学生の皆様が筑後川について学びながら考案頂いたプロセスは、流域に生きる我々にとって大きな財産となりました。採用されたロゴマークを旗印に、千年川とも称される筑後川の次の百年を流域皆で踏み出したいと思います。

・古賀 円さん



久留米絣みらい研究室 Coppolart 代表

久留米大学 法学部 非常勤講師

久留米出身。伝統工芸の久留米絣の洋服を製作しながら、久留米大学と絣のファッションの企画・運営など地域連携を軸とした普及活動を推進。織元とのコラボや筑後地域の着地型ツーリズム、企業との協働商品開発などに携わる。

「この取り組みに参加した感想」や「100周年にあたって筑後川への想い」

北部九州の暮らしを支える筑紫次郎に想いを馳せるいい機会となりました。九大の学生さん達には広大な川の風景がどう映ったのか。若い感性とロゴのクオリティの高さ、製作に至るまでの深い思考や熱意に心打たれました。川の恵みによって流域に産業がもたらされ、今も脈々と人の営みとして残っていることを感じ、先人への敬意と共に、これからの100年という未来をも感じる時間でした。

・本間 雄治さん



1949年生まれ 佐賀市在住

NPO法人大川未来塾・NPO法人みなくるSAGA 各理事

コロナ禍の昨今ですが、ここ数年は奇しくも筑後川の歴史文化に携わる機会を得ました。明治19年速記録「千歳川（筑後川）工事説明」の現代語訳、下流の昔写真集「筑紫次郎物語一統編」の編集発刊、地域歴史誌「大川・若津昔ものがたり」の企画編集など、まさに100周年に合わせたかのような筑後川の活動でした。「歴史に学び未来に生かす」と再認識しております。